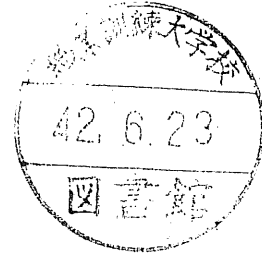


調査研究報告書

昭和39年度その2



職業訓練大学校



編集にあたって

本報告のうち1～3の項目は実態調査に基づく結果をとりまとめたものであり、4は実証的研究として現在継続中のものの中間報告である。

今回の実態調査では、訓練の場以前の問題として、訓練を受ける者の訓練に対する準備性適時性について特定職業から考察するほか、中高年令者の労働能力、適職の判定並びに雇用の実態を明らかにし、更らに近年の技術革新によって技能そのものがどのように変り、それが訓練に対してどのように影響するかを検討することとした。また項目4では、本校附属総訓機械科訓練生を対象として、技能の習熟過程において現われる量的、質的な変化現象を多角的な面から観察測定して、効果的な実技訓練設定の為めの足がかりとしようとするものである。

目 次

1. 技芸，技能的職業の練習開始時期に
関する調査…………… 3
2. 中高年齢者の雇用並びに
労働能力に関する調査……………20
3. 技術革新に伴なう技能労働の
変化に関する調査……………56
4. 技能の習熟に関する研究（その1）
—訓練期間における旋削技能の変化—……………70